

裁判員制度は刑事司法を どう変えるか？

《パネリスト》

加藤学（裁判官）

稲川龍也（検察官）

神山啓史（弁護士）

《コメンテータ》

白取祐司（北海道大学）

土井隆義（筑波大学）

浜井浩一（龍谷大学）

《総括発言》河合幹雄（桐蔭横浜大学）

《コーディネイタ》葛野尋之（一橋大学）

裁判員制度が始動して 3 年、刑事司法が大きく変わろうとしています。

刑事裁判により解明される「真相」の意味、刑事司法への社会的期待や

その社会的機能、捜査・取調べのあり方、公訴提起の基準、

裁判後の犯罪者処遇などについて、裁判員制度の影響とその意義を、

裁判員裁判の実際を踏まえて考えます。

日時：2012 年 10 月 28 日（日）13：50～17：20

（開場予定時刻：13：30）

会場：一橋大学国立西キャンパス 本館 21 番教室

参加費：会員 2,000 円 非会員 3,000 円 学生一律 1,000 円

本シンポジウムは、日本犯罪社会学会年次大会の 1 つであるため、

上記参加費で他のセッションのご聴講・ご参加も出来ます。

.....
[お問い合わせ先]日本犯罪社会学会研究委員会 (ncs.kenkyu@gmail.com)